

第 68 回 SGRA フォーラム 夢・希望・嘘 —メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性を探る—	
主 催	渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA)
日 時	2022 年 2 月 20 日 (日) 午後 2 時から 5 時
開催方法	オンライン (Zoom ウェビナー) 開催
参加方法	参加には事前登録が必要です。 (最後のページの「参加にあたってのお知らせ」をご参照ください)
フォーラムの趣 旨	<p>現代社会に生きる者がメディアの影響からのがれることは難しい。服から食べ物まで、私たちの日常的なあらゆるものの選択はメディアに左右されている。同様に、子供のころからジェンダーやセクシュアリティに関わる情報にさらされ、女性は、男性は、いかに行動すべきなのか、どのようなジェンダーやセクシュアリティが存在するのか、恋愛とは何なのかというイメージもメディアにより作られている。メディアは意見を作るための貴重なツールであるだけでなく、意見を変えるためのツールでもある。</p> <p>本フォーラムではメディアはどのように恋愛、ジェンダーやセクシュアリティの理解に影響を与えているのか？視聴者やファンはどのようにメディアと接触しているのか？社会的な変化のために、メディアをどのように利用することができるのか？など、現代におけるメディアとジェンダーおよびセクシュアリティの関係性のさまざまな様相を皆さんと共に掘り下げ、探ってゆきたい。</p> <p>基調講演者：ハンブルトン・アレクサンドラ (津田塾大学) 発表者：バラニャク平田ズザナ (お茶の水女子大学)、于寧 (国際基督教大学) 洪ユン伸 (一橋大学) 司会/モデレーター：デール・ソイヤ (インディペンデントリサーチャー)</p>
タイムテーブル	14:00 開会/SGRA の紹介 14:05~14:50 基調講演 ハンブルトン・アレクサンドラ 14:50~15:10 質疑応答 15:10~15:20 休憩 15:20~15:40 発表① バラニャク平田ズザナ 15:40~16:00 発表② 于寧 16:00~16:20 発表③ 洪ユン伸 16:20~16:25 休憩 16:25~17:00 ディスカッションと質疑応答 17:00 閉会/終了
参加費	無料

《プログラム》

夢・希望・嘘

—メディアとジェンダー・セクシュアリティの関係性を探る—

基調講演：

タイトル：今の時代、白馬に乗った王子様って必要？

リアリティーテレビの「バチェラージャパン」と「バチェロレッテジャパン」から見たジェンダー表象

講演者：ハンブルトン・アレクサンドラ (津田塾大学)

非正規雇用者の増加、生涯結婚しない人の増加を背景に、結婚して子供を作って安定した生活を送るのが当たり前だと思われていた時代は終わった。ハイスペック男性の心をつかむために若年女性が競いあうという趣旨の番組「バチェラージャパン」が2017年からアマゾンプライムでスタートした。人気を得て2020年にはハイスペック女性の心をつかむために若年男性が競争する「バチェロレッテジャパン」が配信され、2022年現在では4代目のバチェラーまで制作されている。

「バachelorジャパン」「バacheloretteジャパン」はともに、人生のパートナーがいなければ幸せではないと強く主張する恋愛至上主義を強調する番組のように見えるが、実は結婚よりも自立を手に入れようとしている参加者が多いということが分かる。この講演では「バachelorジャパン」と「バacheloretteジャパン」にみる現代日本社会のジェンダー像を考察して、この番組が明らかにする男女の格差、そして貧困の格差について考えていく。

発表①：

タイトル：夢を売り、夢を描く：ジェンダー視点からみる宝塚歌劇団の経営戦略と関西圏のファン文化

発表者：バラニャク平田ズザンナ（お茶の水女子大学）

女性の自由を映し出しエンパワーする世界なのか、男性に支配されている社会の反映そのものなのか？100年以上の歴史を持つ宝塚歌劇団は未婚の女性のみから構成されており、その公演を観劇する観客の圧倒的多数は女性である。マスメディアが普及してきて〈女性の世界〉としての宝塚歌劇団の認識が強いが、そのイメージとは対照的に多くの先行研究が大手企業の阪急電鉄との関わりを主張し、可憐な舞台の裏を男性中心の世界として描く。本発表では関西圏の宝塚ファンの語りを分析し、兵庫県宝塚市を本拠地とする宝塚歌劇団の経営戦略の方向性と地元の宝塚ファン文化への影響について考察する。

発表②：

タイトル：中国本土のクィア運動におけるメディア利用

—北京紀安德諮詢センターによるメディア・アクティビズムを中心に

発表者：于寧（国際基督教大学）

本報告では、2020年に活動終了した中国本土で最初の性的マイノリティ支援団体の一つである北京紀安德諮詢センターの歴史をメディア・アクティビズムの視点から振り返ることを通じて、中国本土のクィア運動におけるメディア利用の状況について考察する。北京紀安德諮詢センターは、1997年にページャーを用いた個人らによる支援ホットラインとして発足し、2002年に一般企業として登録することで組織化を実現した。それ以来、同センターは、当事者のコミュニティ構築とエンパワーメントのために、ページャーや紙媒体、映像など様々なメディアを利用するだけでなく、2011年には「レインボー・アワード（中国彩虹媒体奨）」を立ち上げ、性的マイノリティに関するマスメディアの報道にも働きかけるようになった。本報告で紹介する独創的なメディア利用は中国本土のクィア運動の一つの特徴であり、その解明がクィア運動の実態に対する理解をさらに深めることができると考える。

発表③：

タイトル：Me too からデンジャンニョ（味噌女）まで：韓国のメディアにおける「フェミ/嫌フェミ」をめぐる

発表者：洪ユン伸（一橋大学）

韓国におけるMe too運動はメディアを通して拡散されていった。政治・芸能・文学・教育界において様々な「性暴力」を受けた女性たちが、メディアを通して被害事実を暴露し、その被害者たちに「あなたたちは一人ではない」という#Me too（性暴力被害の告発運動）がSNSを中心に拡散されていくような形での盛り上がりを見せた特徴がある。これらの動きは、韓国社会の各分野において「性差別」と「権威主義」に対する告発として評価できるだろう。しかし一方で、自らを「フェミニスト」と名乗る人に対するバッシングも強まっている。日常生活においては、ママチュン（ママ虫）やデンジャンニョ（味噌女）などの女性を見下す言葉が生まれた。次期大統領候補が、「女性・家族部廃止」を公約の一つに掲げていることでも分かるように、「フェミニストを嫌う＝（嫌フェミ）」の動きが根強くなっている。これらの一連の動きの共通項に韓国社会の「メディアと女」は重要なファクターとなっている。こうした問題認識のもと、本報告では韓国のメディアにおける「フェミ/嫌フェミ」の現状を詳しく検証しながら、性別的な女 vs 男の二分法を乗り越え、差別に向き合う社会に向かうためにメディアの役割はいかなるものであるべきかを共に考えていきたい。

《講師プロフィール》



ハンブルトン・アレクサンドラ Alexandra HAMBLETON

2017年東京大学大学院学際情報学環で博士号取得。現在、津田塾大学学芸学部英語英文学科講師。専攻は、カルチュラル・スタディーズ、メディア、ジェンダー、セクシュアリティ。



バラニャク平田ズザンナ

マンチェスター大学日本研究優等学士、お茶の水女子大学大学院ジェンダー社会科学修士、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程在籍中。現在、埼玉大学・聖心女子大学非常勤講師。研究のキーワードは宝塚歌劇、都市文化、空間論、ファン文化研究、経営戦略、ジェンダー論。2019年度渥美国際交流財団奨学生。



于寧（う・ねい）YU Ning

南京大学日本語学科学士。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻（表象文化論）博士前期課程修了。同博士後期課程在籍中。現在、国際基督教大学ジェンダー研究センター研究員。研究テーマ「中国インディペンデント・クィア映像文化」「中国本土におけるクィア運動の歴史」。2020年度渥美国際交流財団奨学生。



洪ユン伸（ほん・ゆんしん）HONG Yunshin


早稲田大学アジア太平洋研究科「国際関係学」博士号取得（2012年3月）。現在、一橋大学非常勤講師。関心分野は、政治思想、哲学、安全保障学。フェミニズム批評理論など。博士過程では「占領とナショナリズムの相互関係—沖縄戦における朝鮮人と住民の関係性を中心に」をテーマに研究。2008年度渥美国際交流財団奨学生



司会・モデレーター： デール・ソニヤ Sonja DALE

ウォリック大学哲学部学士、オース大学ヨーロッパ・スタディーズ修士を経て上智大学グローバル・スタディーズ研究科にて博士号取得。これまで一橋大学専任講師、上智大学・東海大学等非常勤講師を担当。現在、インディペンデントリサーチャー。ジェンダー・セクシュアリティ、クィア理論、社会的なマイノリティおよび社会的な排除のプロセスなどについて研究。2012年度渥美国際交流財団奨学生。

参加にあたってのお知らせ

参加申込の方法	<p>参加には事前登録が必要です。 下の QR コードまたは URL からお申込みいただけます。 事前登録 QR コード：</p>  <p>事前登録 URL： https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_KSs7_UZmR_aDZ3P5lgTUOw</p>
お問い合わせ	<p>SGRA 事務局に E-mail でお問い合わせください。 sgra@aisf.or.jp</p>
ご質問とコメント	<p>【質問とコメントを募集します】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質問とコメントは Zoom ウェビナーのチャットに書き込んでください。 2. お名前と質問、コメントを簡潔に書き込んでください。 3. 質問とコメントは日本語で書き込んでください。 4. 質問に対する「回答」はチャットには表示されません。ディスカッションの時間に講演者が口頭でお答えします。 5. 時間が限られていますので、すべての質問にお答えすることができない場合もございます。あらかじめご承知おきください。
技術トラブル	<p>技術トラブルがおこった場合には Zoom ウェビナーのチャット機能でご連絡ください。スタッフがお答えします。</p>
アンケート	<p>当日ウェビナー終了後にアンケートが表示されます。 今後の運営のため、アンケートの記入にご協力をお願い申し上げます。</p>